



患者通信

—ささえちゃん便り—

第 135 号



特色ある診療科特集

漢方内科

当院は、専門外来や特色ある診療科等が
様々ございます。不定期にていくつかを
ご紹介いたします。今月は**漢方内科**です。

日常診療の「あと一歩」に、漢方という選択肢を

近年、「原因がはっきりしない不調」や「治療をしても残るつらい症状」に対して、漢方治療が再び注目されています。

漢方は、もともと「目の前の患者さんのつらさを和らげる」ことを第一に発展してきた医学です。現代医学だけでは対応が難しい不調にも、漢方を加えることで治療の幅が広がることがあります。

■ こんな症状のある患者さんに

現代医学の治療に加えて、次のような症状に対する漢方の併用が効果的です：



よくある慢性症状に

痛み、しびれ、めまい、頭痛、肩こり、慢性鼻炎、腰痛、不眠、食欲不振、便秘異常、慢性疲労、月経痛、PMS(月経前症候群)、更年期症状、皮膚症状、頻尿、目の疲れ、天気・気圧の変動に伴う不調など

高齢者のケアに

術後の体力低下・治癒促進、繰り返す肺炎、リハビリ意欲低下、食欲不振、緩和ケア など

体質改善を目指す方に

冷え性、胃腸虚弱、体力低下、不妊症、自律神経症状(動悸、発汗など)、医療者自身の健康維持など

その他

COVID-19 後遺症、中高生の不調・不登校、軽度の精神症状(不安、抑うつなど)など



■ 診療のポイント

・患者さん一人ひとりに合わせて、「証(しょう)」を見極め、最適な処方を選びます。(問診・脈診・舌診・腹診など)。

・エクス剤(顆粒)も用いますが、外来でも煎じ薬による治療が可能です。

・入院などの専門的な治療が必要な場合は、会津医療センター漢方医学講座と連携しています。

■ 専門連携先：会津医療センター漢方医学講座

・外来・入院ともに本格的な煎じ薬の使用が可能です。

・2024年10月より、田原英一教授が就任し、診療・研究・教育の体制がさらに強化されました。

・メーリングリストを介して、医療者向けに教育動画を多数配信中。

Zoom 等を活用したオンライン勉強会も開催中です。



当院漢方内科では、会津医療センターと密に連携しながら、日常診療に役立つ漢方治療を行っております。
「もう一歩、何か手を加えたい」という患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

(文責：中野裕子)



認定看護師紹介

当院は、様々な認定看護師が在籍しています。
シリーズでご紹介いたします。
今月は慢性心不全看護分野の認定看護師です。

認定看護師活動紹介～心不全地域連携パスについて～



慢性心不全看護認定看護師
きぼう棟外来 東雲紀子

高齢化や生活習慣の欧米化などを背景に、国内での心不全の患者数増加、いわゆる「心不全パンデミック」が起きています。2030年には心不全患者は130万人との予測があり、心不全ケアの課題として、再入院率の高さや、併存疾患を抱える患者さんが増えていることでのケアの複雑さなどが挙げられます。

そのような中、慢性心不全看護認定看護師には、心不全患者さんを身体的のみならず、様々な側面からアセスメントし、症状緩和のマネジメントやQOLを高めるための療養生活行動支援や、患者さんの自己決定を尊重した看護実践、多職種協働などが求められています。

昨年度、福島県循環器病対策推進協議会内でワーキンググループ(WG)が立ち上がり、私は委員として心不全地域連携パスの作成に取り組みました。連携パスによる急性期病院から慢性期病院、かかりつけまでのシームレスな支援体制の構築を目的に、診療計画と合わせて患者情報共有シートも作成されました。その中で、看護師の立場でのこだわりを二点ほど盛り込みました。まず、心不全の病みの軌跡の共有です。患者さんが心不全のステージ分類のどこにいるのかを皆で共有することで、過去から現在の状況と、今後の見通しと治療目標のすり合わせが可能になります。次に、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)項目です。希望する医療、希望しない医療、希望する今後の過ごし方など、患者さんの意思を繋ぐことで、もしものときに備え、患者さんの権利を守ることができます。医療だけでなく介護まで巻き込んだ支援体制ができれば理想と考えています。今年度よりWGでは、本格的な運用に向けて周知活動が始まりました。院内と地域を繋ぐツールが活用されることで、心不全患者さんが住み慣れた場所で、その人にとって幸せと思える生活や人生が送れることが期待されます。今後の運用にあたっては、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

